

2000年以降日本における郭沫若研究文献目録稿(初稿)
附・日本郭沫若研究会報目録 (2000 年—2015 年)

日本郭沫若研究会会報編集部編

* 本目録は、2000 年 1 月から 2015 年 12 月の 16 年間に、日本で出版された定期刊行物、および図書に掲載・収録された郭沫若に関する論文、エッセイ等の編年目録である。国外で出版された定期刊行物、図書に掲載されたものは含まないが、国内の刊行物に掲載された文献は、外国語のものも収録した。

* 『郭沫若研究会報』掲載のものは、付録の日本郭沫若研究会報目録 (2002 年—2015 年) に譲り、本目録には掲載していない。

* 郭沫若を主題とするものだけでなく、一部に郭沫若に関するまとめた記述を含む文献も、網羅的に集めようとしている。本目録に見掲載の文献があれば、ご教示いただきたい。その都度、当該年度に掲載し、可能な限り関連文献を「網羅」したい。未掲載の資料、掲載資料の不備、誤りなどを発見されたら、事務局宛てにお知らせいただくよう、お願いします。(2016 年 4 月 1 日)

2000 年

- 祁放(訳)「岐路」丸山昇監訳、芦田肇主編『中国現代文学珠玉選—小説 1』二弦社、2000.3,45～56
西村富美子「日本近代文学に於ける中国文学との交流—谷崎潤一郎；謝逸六・田漢・郭沫若・欧陽予倩など」《愛知県立大学外国語学部紀要 言語・文学編》(32),2000.3
青野繁治「施蛰存『阿檻公主』と郭沫若の『孔雀胆』」《野草》中国文芸研究会(66)2000.8,96～105
藤田梨那「郭沫若と朝鮮—「狼群中一隻白羊」を中心に」《国士館大学文学部人文学会紀要》(33)2000.12 78～65
上村祥子「近代中国の民衆像 郭沫若の『私の幼少時代』より」《外国語学論集》名古屋学院大学大学院生協議会(1),2000,43～59

2001 年

- 市瀬信子(訳)「郭沫若『随園詩話札記』訳稿(1)、『福山平成大学経営法学年報』(2),2001.3,63～87
蘇徳昌「中国人の日本観—郭沫若」《奈良大学紀要》(29),2001.3,1～25
岡崎俊夫訳『抗日戦回想録』(中公文庫)中央公論新社,2001.8
渡辺新一「中国現代詩の系譜—詩人たちの肖像(7) 郭沫若—五四を代表するロマン詩人」《月刊しにか》大修館,12(10),2001.10,94～97

2002 年

- 中 裕史「郭沫若の「豪放」と「繊細」—詩型との関連から」《アカデミア 文学・語学編》南山大学 71),2002.1, 362～369
劉 紅「抗戦期における中国知識人の役割—郭沫若の場合」《国際学論集》上智大学国際関係研究所 (49),2002.1,39～57
横打理奈「郭沫若の新詩誕生を探る—旧詩の考察から」《東洋大学中国哲学文学科紀要》(10),2002.3,71～93
武継平「北伐期の郭沫若」《言語文化論究》九州大学大学院言語文化研究院(16),2002.3,15～28
巖安生「間(あわい)を生きる—陶晶孫と郭沫若の九大留学時代」《Fukuoka UNESCO》福岡ユネスコ協会 (38),2002.9,70～78
武継平『異文化の中の郭沫若—日本留学の時代』九州大学出版会,2002.12

2003 年

岩佐昌璋「福岡滞在期の郭沫若文学の背景その他」《言語文化論究》九州大学大学院言語文化研究院 (17),2003.3,121～134

武継平「北伐期の郭沫若(続)広東大学における郭沫若の活動に関する考察」《言語文化論究》九州大学大学院言語文化研究院(17),2003.3,53～

張淑琴「郭沫若の日本観」《人間文化学研究集録》大阪府立大学人間文化学研究科(13),2003.3,63～75

藤田梨那「郭沫若「鷄之帰去來」論」《国士館大学漢学紀要》(5),2003.4,23～41

藤井省三「留学・亡命・外交—郭沫若の来日三様」《国際交流》国際交流基金, 25(4),44～49

李慶国「北京の中国近現代地図(4)—郭沫若の旧居を訪ねて」《アジア観光学年報》追手門学院大学文学部,4, 2003.4,138～143

市瀬信子(訳)「郭沫若『随園詩話札記』訳稿(2)」《平成法学》福山平成大学,(8),2003,74～43

藤田梨那「郭沫若の「天狗」論」《国士館大学文学部人文学会紀要》(36),2003.12,

2004 年

藤野 真子「73 号合評 賈笑寒「郭沫若『湘累』と精神病理学」評」《野草》中国文芸研究会.(74) 2004.8 172～174

賈 笑寒「郭沫若「湘累」と精神病理学」《野草(特集 深化する中国文学研究)》中国文芸研究会, (73) 2004.2 78～94

賈 笑寒「郭沫若「女神之再生」とゲーテ『ファウスト』」《現代中国》日本現代中国学会.(78) 2004 155～162

賈 笑寒「郭沫若『女神』にみるタゴール、ホイットマンの影響」《Ex Oriente》大阪外国語大学言語社会学会; 京都: 嵯峨野書院 (発売), 11 2004 171～197

賈笑寒『郭沫若『女神』論: 郭沫若の近代思想受容を中心に』博士論文.大阪外国語大学. 平成 16 年 3 月 25 日.

中井政喜『二十年代中国文芸批評論: 郭沫若・成仿吾・茅盾』博士論文.名古屋大学. 平成 16 年 7 月 30 日.

武 継平「郭沫若の『女神』創作期の逸詩文—作品の翻訳と解題」《言語文化論究》九州大学大学院言語文化研究院,(19) 2004 193～218

武 継平「『女神』に見られる伝統詩形の伝承と乖離」《言語科学》九州大学 (39) 2004 P67～88

小崎 太一「論“涙浪滔滔”—郭沫若早期文學中的“水”意象解析」《九州中国学会報》九州中国学会.(42) 2004 145～137

横打理奈「郭沫若『女神』にみる神話回帰の態度」《神話と詩》日本聞一多学会(3)2004.12 P19～37

2005 年

戴煥「郭沫若におけるタゴール評価の問題」『日本・中国交流の諸相』早稲田大学古代文学比較文学研究所編. 勉誠出版, 2006.3.(アジア遊学別冊 ; no.3)

安藤 彦太郎「CHINESE SURVEY MEMOIR 私の日中関係史「忘れ得ぬ」人々 日本を「知り尽くした」"多情の人"郭沫若(2)」《Decide》サバイバル出版, 23(7) (通号 255) 2005.12 20～27

安藤 彦太郎「CHINESE SURVEY MEMOIR 私の日中関係史「忘れ得ぬ」人々 日本を「知り尽くした」"多情の人"郭沫若」《Decide》サバイバル出版,23(6) (通号 254) 2005.11 18～27

李 慶国「郭沫若と文求堂主人田中慶太郎—重ねて『郭沫若致文求堂書簡』の誤りを訂正する」《アジア文化学科年報》追手門学院大学文学部アジア文化学会, (8) (通号 20) 2005.11 49～60

郭沫若 著 ; 大高順雄, 藤田梨那, 武継平訳『桜花書簡: 中国人留学生が見た大正時代』東京図書出版会 ; リフレ出版 (発売), 2005.6.

斎藤孝治『シュトゥルム ウント ドランク ―疾風怒涛』(上)(下) シュトゥルム ウント ドランク編集出版委員会. 2005. 6

武 継平「郭沫若の自己批判の懸案」《言語文化論究》九州大学大学院言語文化研究院, (20) 2005 93～105

中井政喜『一九二〇年代中国文芸批評論:郭沫若・成仿吾・茅盾』汲古書院, 2005.10.(第1章「郭沫若『革命与文学』における〈革命文学〉提唱」[原載《言語文化論集》名古屋大学 12-2、13-1]. 第2章「郭沫若と『社会組織と社会革命』に関する若干の考察」(河上肇著)[原載《名古屋大学中国語学文学論集》第8輯～第10輯]所収)

吉成 大輔「日本の中の中国 郭沫若と須和田」《曙光》日中文化研究会.翰林書房, 2(3) 2005 52～54

中村俊也「郭沫若における転生への論理について」《神話と詩》日本聞一多学会(4) 2005.12 111～113

武継平「郭沫若の自己批判について」《神話と詩》日本聞一多学会(4) 2005.12 128 (1) ～119 (10)

大高順雄「郭沫若の用いた比喻」《神話と詩》日本聞一多学会(4) 2005.12 118 (11) ～114 (15)

牧角悦子「中国近代の文人と学術―魯迅・郭沫若・聞一多」《神話と詩》日本聞一多学会(4) 2005.12 1～19

郭 偉「武田泰淳と現代中国の知識人―郭沫若の場合」《神話と詩》日本聞一多学会(4)2005.12 109～110

2006 年

青野 繁治「77 号合評 武継平 郭沫若に対する警察監視の実態--「日支人民戦線派諜報網」の検挙から」《野草》中国文芸研究会.(78) 2006.8 112～114

武 継平「郭沫若に対する警察監視の実態―「日支人民戦線派諜報網」の検挙から」《野草》中国文芸研究会 (77) 2006.2 51～66

宮下 正興「市川市郭沫若記念館を訪れて--日本での生活と研究活動を探る」《季刊中国》「季刊中国」刊行委員会, (85) 2006.夏季 57～62

大東文化大学人文科学研究所郭沫若『両周金文辞大系図録考釈』研究班[編]『近出殷周秦漢金文集録』第1録(『文物』1999,6-2004,12) 大東文化大学, 2006.4.(大東文化大学人文科学研究所研究報告書 ; 2005 年度)

郭 偉「武田泰淳と郭沫若--莊園を持つ詩人 杜甫をめぐる」《表現学部紀要》和光大学表現学部, (通号 7) 2006 298～288

武 継平「中国文学あれこれ(73)郭沫若の「寄託小説」の方法」《季刊中国》「季刊中国」刊行委員会 (84) 2006.春季 74～84

横打理奈「郭沫若と『楚辞』―「晨安」に見る飛翔を手掛かりに」《神話と詩》日本聞一多学会(5) 2006.12 P61～80

大高順雄「郭沫若在文学作品中所用的比喻」《大手前大学論集》大手前大学社会文化学部.(6), 2006.215～235

2007 年

郭 平英. 劉 建雲 訳「郭沫若家信集『桜花書簡』への訂正と補遺」《東アジア研究》島根県立大学北東アジア地域研究センター 13) 2007.3 49～70

陳 正醒「瞿秋白《多余的話》の周辺―「郭沫若あての手紙」を中心に」《中央大学文学部紀要》中央大学文学部.(通号 214) 2007.3 179～208

伊藤虎丸『近代の精神と中国現代文学』汲古書院, 2007.10.(問題としての創造社. 郁達夫と大正文学. 郭沫若の歴史小説)

松岡純子「郭沫若「鄭成功」について」『南腔北調論集: 中国文化の伝統と現代: 山田敬三先生古稀記念論集』山田敬三先生古稀記念論集刊行会. 東方書店, 2007.7.

2008 年

牧角 悦子 「郭沫若の古代研究--近代学術におけるその位鷹づけ」《神話と詩:日本間一多学会報》日本間一多学会.(7) 2008.12 13~22

鈴木 義昭 「間一多と郭沫若—間一多の郭沫若『女神』評価を巡って」《神話と詩》日本間一多学会.(7) 2008.12 1~12

横打理奈 「『女神』における詩的表現としての科学用語—「波」のイメージを中心に」《神話と詩》日本間一多学会.(7) 2008.12 23~47

市川市文学プラザ編 『郭沫若と日中文化ゆかりの市川の文人たち』市川市文学プラザ, 2008.8. 市川市文学プラザ企画展図録 5 (会期: 平成 20 年 6 月 7 日-9 月 23 日.郭沫若来市 80 年・没後 30 年, 東山魁夷生誕 100 年記念.)

岸田 憲也 「九州帝国大学留学生の郭沫若が見た「千代の松原」」《中国文学論集》九州大学中国文学会.(37) 2008 106~120

柿沼文 「郭沫若書誌」《文献探索 2006》2006, 256~261

2009 年

永田知之 「郭沫若『卜算子詠梅』扁額始末」《漢字と情報》京都大学(18)2009. 3

坂井洋史「逸脱の彼方、啓蒙の行く末—初期郭沫若の小説を巡って」《九葉読詩会》九葉読詩会 4),2009.3, 1~53

郭 平英 「郭沫若とゆかりの地」《人民中国》人民中国雑誌社 (通号 671) 2009.5 34~39

劉建雲 「岡山時代の郭沫若—地元市民とのふれあいをたどりながら」《人民中国》人民中国雑誌社 (通号 671) 2009.5

崔 淑芬 「日本における郭沫若の遺跡の一考察」《筑紫女学園大学・短期大学部人間文化研究所年報》筑紫女学園大学・短期大学部人間文化研究所, (20) 2009.8 165~176

成家 徹郎 「日中友好の断層--郭沫若と文求堂田中慶太郎(上)」《東方》東方書店. (343) 2009.9 16~21

中 裕史 「郭沫若におけるキリスト教の受容--小説『落葉』からみえるもの」《中國文學報》京都大學文學部中國語學中國文學研究室. 中国文学会 (78) 2009.10 118~135

成家 徹郎 「日中友好の断層--郭沫若と文求堂田中慶太郎(下)」《東方》東方書店.(344) 2009.10 8~11

岩佐昌暲 「日本における郭沫若の紹介・研究 90 年」《熊本学園大学文学・言語学論集》熊本学園大学文学・言語学論集編集会議 16(2) (通号 32) 2009.12 185~199

岸田 憲也 「郭沫若の訪日と福岡・九州大学」《九州中国学会報》九州中国学会.(47)2009 61~75

岸田 憲也 「九州大学所蔵の郭沫若「盈盈灘水碧羅[カン]」詩軸について--「舟游陽朔二首」其二の解釈と関連させて」《中国文学論集》九州大学中国文学会 (38) 2009 122~136

2010 年

岩佐昌暲 「日本における郭沫若の紹介・研究九十年」《神話と詩:日本間一多学会報》日本間一多学会.(通号 9) 2010.12 145~154

裴 亮 「「雲遊詩人」徐志摩の目に見る日本--郭沫若の「留別日本」と比較して」《中国文学論集》九州大学中国文学会. (39) 2010 118~132

小崎太一 『郭沫若・陶晶孫を中心とした中国現代文学の唯美主義と表現主義の研究』博士論文.熊本大学. 平成 22 年 8 月 31 日.

岩佐昌暲, 藤田梨那, 武継平 編著 『郭沫若の世界』福岡: 花書院, 2010.7.(当研究会主催「郭沫若九大留学90周年記念国際学術研究集会」報告論文集. 日本人の報告は以下を収録)

齊藤孝治「郭沫若がしたための聶耳墓誌銘の削除問題について」 2~732

小谷一郎「郭沫若の佚文「雁來紅」をめぐる」33~44

岸田憲也「郭沫若眼中的“千代松原”」45~53

岩佐昌暲「五言旧詩「題延光四年磚」をめぐって—『民族詩壇』との関わりその他」129～138
 大高順雄「郭沫若の英詩訳」／横打理奈「郭沫若と宮沢賢治—詩人と科学」139～144
 横打理奈「郭沫若と宮沢賢治—詩人と科学」145～154
 鈴木義昭「聞一多と郭沫若—以聞一多对郭沫若作品《女神》的評價為中心」167～174
 武 継平「狂暴と柔情—博多湾賦予《女神》的兩種性格」175～194
 小崎太一「『女神』と游泳」195～202
 瀬戸 宏「郭沫若歴史劇和焦菊隱—以《蔡文姬》為主」213～215
 牧角(竹下)悦子「郭沫若の古代研究—在近代學術里的定位」227～232
 成家徹郎「郭沫若の古文字研究—文求堂田中慶太郎の援助と協力」233～242
 藤田梨那「郭沫若的万宝常研究之動機与意義」243～249
 成家 徹郎「郭沫若と文求堂田中慶太郎—交流の軌跡」《人文科学》大東文化大学人文科学研究所, (15)
 2010.3 211～259

2011 年

成家徹郎『説文解字の研究—古代漢字研究序説(後編)』大東文化大学人文科学研究所, 2011.3
 横打 理奈「中国近代文学における自然観の変容—郭沫若の新詩誕生をめぐって」《「エコ・フィロソフィ」研究》東洋大学「エコ・フィロソフィ」学際研究イニシアティブ事務局.東洋大学, (5) 2011.3 27～41
 巖安生「郭沫若の『女神』を再読する」川本皓嗣, 上垣外憲一 編『一九二〇年代東アジアの文化交流』2
 思文閣出版, 2011.6. 大手前大学比較文化研究叢書 7
 中島みどり『頃筐集：中国文学論集』朋友書店, 2011.2. (「郭沫若の初期文学論」「郭沫若の小説」「郭沫若史劇論」「叛逆する女たち」「蔡文姬」論収録)
 岩佐昌暲, 藤田梨那, 岸田憲也, 郭偉 編『日本郭沫若研究資料総目録』明德出版社, 2011.4.
 藤田梨那訳 郭沫若『女神：全訳』明德出版社, 2011.4.
 顧 雯 訳. 岩佐 昌暲 解題「郭沫若.私の詩作の経緯(原題：我的詩作的經過 郭沫若全集 第16卷)」《東海大学総合経営学部紀要》東海大学総合経営学部,(4):2011 89-100

2012 年

岩佐 昌暲「日本における郭沫若『女神』の研究」《海外事情研究》熊本学園大学「付属海外事情研究所」,
 39(2)=79:2012.3 139-152
 筧久美子『詩仙とその妻たち：李白の実像を求めて』研文出版, 2012.11.研文選書 116 (〈書評〉郭沫若『李白と杜甫』)
 坂井洋史『逸脱と啓示—中国現代作家研究』汲古書院,2012.12(第3章「逸脱の彼方へ—初期郭沫若の小説を巡って」収録)
 顧雯. 岩佐 昌暲「『三葉集』田漢・宗白華・郭沫若著(その1)郭沫若より宗白華への手紙」(原題：郭沫若致宗白華)《東海大学総合経営学部紀要》東海大学総合経営学部(5):2012 49-60

2013 年

大高 順雄「郭沫若の中国語訳における「着」の用法」《大手前大学論集》大手前大学,(14):2013 287-318
 岩佐昌暲『中国現代詩史研究』汲古書院, 2013.3. (第1部第3章「郭沫若『女神』の一面」)
 顧雯. 岩佐 昌暲「『三葉集』田漢・宗白華・郭沫若著(その2とその3)郭沫若より宗白華への手紙」
 (原題：郭沫若致宗白華)《東海大学経営学部紀要》東海大学経営学部(熊本)(6):2013, 113-120
 小谷一郎『創造社研究：創造社と日本』汲古書院, 2013.12. (第1章「第一期創造社同人の出会いと創造社の成立」第6章「郭沫若と一九二〇年代中国の国家主義『孤軍』派」)

2014 年

- 田中 千絵「郭沫若「行路難」と佐賀熊の川温泉」《中国文学論集》(43) (竹村則行教授 退職記念号) 2014., 215-223
- 成家 徹郎「アジア・アフリカ図書館"郭沫若文庫"新装オープン」《東方》東方書店. (398): 2014.4 9-16
- 藤田 梨那「郭沫若新体詩創作の歴史的意義: "風景"の発見と口語詩の試み」《国士館人文学》国士館大学文学部人文学会. (46):2014.3 87-107
- 藤田梨那「郭沫若の日本体験と詩歌創作」『「日本一色」の根底を探る:日本留学と東アジア的「知」の大循環』法政大学国際日本学研究所. 2014.3. 国際日本学研究叢書 19
- 顧雯. 岩佐 昌暲 「『三葉集』田漢・宗白華・郭沫若著(その4-1)郭沫若より宗白華への手紙」(原題: 郭沫若致宗白華)《東海大学経営学部紀要》東海大学経営学部(熊本) (7):2014 33-43
- 劉建雲「第一高等学校特設予科時代の郭沫若: 「五校特約」下の東京留學生活」《人文学研究所報》. 神奈川大学人文学研究所. (52):2014.8 159-174

2015 年

- 大里浩秋, 孫安石 編著『近現代中国人日本留學生の諸相: 「管理」と「交流」を中心に』神奈川大学人文学研究叢書 / 神奈川大学人文学研究所 編 ; 35, 御茶の水書房, 2015.3.
- 涂 鴻. 秋吉 收「論中国現代詩人郭沫若 1949 年後詩作中の"紅色"思想變遷」《言語科学》. 九州大学大学院言語文化研究院言語研究会, (50) 2015、25-38
- 藤田 梨那「医学・文学・身体: 郭沫若文学における結核病の描写をめぐって」《神話と詩》(日本聞一多学会報) 日本聞一多学会 編 (13) 2015.3, 78-69
- 顧雯. 岩佐 昌暲 「『三葉集』田漢・宗白華・郭沫若著(その4-1)郭沫若より宗白華への手紙」(原題: 郭沫若致宗白華)《東海大学経営学部紀要》東海大学経営学部(熊本) (8):2015.33-43
- 横打 理奈「郭沫若『女神』における自然: 生命主義と汎神」《「エコ・フィロソフィ」研究》, 東洋大学「エコ・フィロソフィ」学際研究イニシアティブ事務局 編(9) 2015.03, 119-136
- 高久 由美「郭沫若『石鼓文研究』と日本伝存の北宋安国拓本について」《JISRD: journal of international studies and regional development》国際地域研究学会編(6) 2015, 97-106
- 松宮 貴之「郭沫若に於ける孔子観と儒教道德の継承問題について 五四運動期から反蔣運動に至るまで」《中国言語文化研究》(15), 佛教大学, 2015.08, 31-64

付 日本郭沫若研究会報目録 (2002 年—2015 年)

創刊準備号 2002 年 12 月

- 岩佐昌暲 藤田梨那 武継平「日本郭沫若研究会設立のよびかけ(案)」
「日本郭沫若研究会規約(案)」
「日本郭沫若研究会成立草案(案)」
「呼びかけ人のプロフィール」
岩佐昌暲「話の弾み—〈日本郭沫若研究会〉の設立覚書」

創刊号 2003 年 5 月

- 岩佐昌暲「短編小説『鼠災』をめぐって(1)」
斎藤貴代子「郭沫若と須和田の郷」
藤田梨那「解釈するということ」
武 継平「『反思郭沫若』から考えたこと」
「詩の対訳コーナー」
斎藤道彦「『女神』序詩」
藤田梨那「日の出」「梅下の酔い歌—日本太宰府に遊ぶ」
武継平 「割れたガラスのコップ」

「会員研究活動の近況」

第2号 2003年8月

藤田梨那「郭沫若記念館のこと」
劉 岸偉「郭沫若と谷崎潤一郎」
垂水健一「劇的な『屈原』との再会」
齊藤孝治「郭沫若と天満佐の天麴羅」
岩佐昌暲「短編小説『鼠災』をめぐって(2)」
武 継平「郭沫若と『中日友誼蓮』」
「詩の対訳コーナー」
岩佐昌暲「燃える石炭—祖国を思う」
新谷秀明「苦い杯」「南風」

第3号 2003年12月

丸山 昇「郭沫若—その一面」
西原大輔「谷崎潤一郎と郭沫若」
竹中憲一「大連の郭老太太…郭安娜の故居」
藤田梨那「テレビドラマ『郭沫若と安娜』」
王延芳著、武継平訳「安娜と郭沫若との最後の面会」
岩佐昌暲「『私詩』としての初期郭沫若詩歌」
宮下尚子「中国の文字改革と郭沫若」
郭 偉「反復される翻訳論争」
武 継平「最新情報・活動報告・編集手記」

第4号 2004年5月

丸山 昇「郭沫若—その一面」
杉本達夫「雄渾社版『郭沫若選集』のこと」
岩佐昌暲「初期郭沫若詩『晴朝』の風景」
瀬戸 宏「郭沫若『蔡文姬』と北京人民芸術劇院」
武 継平「郭沫若と香港の縁」
小崎太一「資料の紹介」(「福岡日日新聞」1919年5月10日付 中国人留学生の動向)
藤田梨那「郭沫若についてシンガポールで講演」
事務局 「北京人民大学・香港中文大学との交流」

第5号 2004年9月

丸山 昇「郭沫若—その一面」
武 継平「郭沫若の自己批判(連載)」
成家徹郎「郭沫若の古文字研究(連載)」
新谷秀明「郭沫若と巴金の間に起こったこと(連載)」
藤田梨那「天狗論」
事務局 「佐賀地区第二回郭沫若シンポジウム開催」

第6号 2005年5月

武 継平「郭沫若の自己批判(連載)」
成家徹郎「郭沫若の古文字研究(連載完了)」
新谷秀明「郭沫若と巴金の間に起こったこと(連載完了)」
藤田梨那「市川市郭沫若記念館落成」
齊藤孝治「郭沫若—康大川—青山和夫について」
【誤植訂正】齊藤論文の題名および本文で「青木和夫」とあるのは「青山和夫」の誤りです。謹んで訂正します。

第7号 2005年10月

杉本達夫「随想：作品の力と寿命のこと—『屈原』『四世同堂』『寒夜』にふれて」
岩佐昌暲「青島郭沫若学会参加記」
武 継平「戦前の中国文学研究会—郭沫若との関わりを中心に」
宮下正興「郭沫若の詩作とその背景—日本における四つの詩碑を通して」

第8号 2006年5月

成家徹郎「郭沫若の十二支起源研究（一）『子』」
武 継平「九大医学部『成績単』の行方」
藤田梨那「郭沫若と白楊社」
大高順雄 〈翻訳〉「勝利の死」

第9号 2007年1月

成家徹郎「郭沫若の十二支起源研究（二）」
岩佐昌暲「郭沫若のロマンチズム—『炉火煤』から思いつくこと」
武 継平「丸山昇氏と郭沫若研究」
藤田梨那「郭沫若と朝鮮」
権 五明「戯曲『屈原』の中国における出版史」
大高順雄 〈翻訳〉「矛盾の統一」

第10号 2008年1月

蔡震作、小崎太一訳「博多を訪ねて」
藤田梨那「医師岡田靖雄先生が語る郭沫若の思い出」
堤 清行「郭沫若先生の肉声を聴いた」岩佐昌暲「楽山郭沫若学会参加記」
武継平訳「死の誘惑」「新月と晴海」「天の狗」「天上の市街」「大鷲」
岩佐昌暲 郭沫若研究関連ニュース／1. 蔡震中国郭沫若学会副会長中国訪問 2. フォーラム
「人間郭沫若の歩いた道」開催さる 3. 九州大学医学部に郭沫若顕彰碑 4. 郭沫若九大入学
九十周年記念国際シンポジウム開催計画
「資料紹介」（郭沫若から静岡県富士高校生への手紙）
「著書受贈」（篠原茂隆会員著『鲁迅と郭沫若—大正期の日本に始まる文学』）
「新入会員の紹介」
武 継平「編集後記」

第11号 2009年2月 郭沫若研究国際学術集会特集

開会式（【開会の辞】岩佐昌暲／【祝辞】九州大学医学研究院長・高柳涼一／中国駐福岡総領事・
武樹民／【歓迎挨拶】大会主席・前九州大学総長・杉岡洋一／【挨拶】北京郭沫若記念館長・郭
平英／【祝電】中国駐日本国特命全権大使・崔天凱）
研究発表のプログラム
「研究発表の概要集」（【基調報告】蔡震／【報告】郭平英／岸田憲也／賈振勇／瀬戸宏／大高順
雄／陳俐／横打理奈／岩佐昌暲／黄曼君／成家徹郎／李怡／廖久明／鈴木義昭／牧角悦子／
朴宰雨／岳洪治／税海模／藤田梨那／魏紅珊／魏建／武継平／小崎太一／斉藤孝治／張伝敏
／周海波／朱寿桐／小谷一郎（論文提出）
「ご寄付への感謝」
「編集後記」

第12号 2011年3月

河内利治（君平）「郭沫若書法管見」
岸田憲也「九州大学所蔵の郭沫若「盈盈灘水碧羅紈」詩軸小考」

藤田梨那「郭沫若文献史料国際学術討論会」及び「IGMA 年会」に参加して
 大高順雄「郭沫若研究会のこと」〔「郭沫若研究会（六高記念館、2010 年 6 月 5 日）報告」〕
 齊藤孝治「郭沫若—鄭成功—安平橋」
 瀬戸 宏「国泰大戲院—郭沫若『屈原』を上演した劇場」
 藤田梨那「安藤彦太郎ご夫妻と郭沫若の友情」
 岩佐昌璋（研究動向）国際郭沫若学会（IGMA）成立／『郭沫若の世界』刊行／『日本郭沫若研究資料集』出版／藤田梨那訳『女神』刊行
 事務局 「新入会員紹介」「退会会員」「会員異動」
 岩佐・岸田「編集後記」

第 13 号 2012 年 12 月

横打里奈「郭沫若の旧詩体における自然との交感」
 大高順雄・于亜 共編「第六高等学校創立百十周年記念論文集 郭沫若研究」
 齊藤孝治「郭沫若の詩聯と河南省固始県にある鄭成功墓とのかかわりについて」
 ＊この文章は入力ミスがありましたので、訂正済みの文を 13 号とは別に公開しています。
 中山新也「郭沫若『女神』序詩、「夜」に見るマルクス主義的共産主義的世界観」
 川崎馨子「資料紹介」《五十万年の死角》
 藤田梨那「第三回国際郭沫若学会国際会議—郭沫若誕生百二十周年記念学会—報告」
 岩佐昌璋「研究動向」郭沫若生誕百二十周年記念行事、次々に挙行／『郭沫若研究文献彙要』出版／『郭沫若誕生百二十周年記念国際学術研討会』開催／『郭沫若研究年鑑』刊行・『郭沫若学刊』第百期を迎える
 岩佐昌璋「『女神』刊行九十周年記念国際学術研討会参加記」
 岩佐昌璋「編集後記」

第 14 号 2015 年 12 月

藤田梨那「医学・文学・身体—郭沫若を例として」
 坂井洋史「一九二四年三月中華学芸社 第一屆年会における郭沫若の講演を巡って」
 杉本達夫「『蔡文姬』は大漢族主義の作品か—一九八〇年『草原』に現れた論議のこと—」
 成家徹郎「郭沫若と傅抱石（一九〇四 - 一九六五）—日本における交流—」
 執筆者紹介
 香月 隆「『女神』演奏会上、における「一个男性的女青年」の考察」
 岩佐昌璋「演奏会上」の背景」
 齊藤孝治「泉州開元寺と郭沫若、弘一法師について」
 Y「郭沫若の律詩「詠泉州」について」
 【資料紹介】編集部「林謙三の放送原稿発表について」
 林 謙三（NHK 国際放送原稿）「郭沫若さんと私の『隋唐燕楽調研究』」
 長谷部剛「郭沫若と林謙三について」
 陳俐・（岩佐昌璋訳）「君 故郷より来る—樂山沙湾郭沫若記念館を紹介する」
 編集部「日中学術研究集会「清末民国初期の来日中国人留学生と中国現代文学」について」